



作：田中麻衣

●かえで／第52号 ●発行日／2020年6月20日 ●発行責任者／内野 浩二 ●編集／石原 美奈・伊東 孝浩



じゃがいも掘りました



Ghです



ブルーベリー収穫開始



ピア中庭から



クリーン班活動中



工房「ハイチーズ」



Ghウッドデッキで昼食会



福作の裏山にて

### 前略

皆様いかがお過ごしでしょうか？  
私たちは毎日笑顔で元気に過ごしています。  
梅雨時期で蒸し暑い毎日ですが、皆さんも  
体調を崩さず元気に頑張ってください。  
次にお会いできる日を楽しみにしております。

草々

MINNAGENKIDESUYO



## ピアの杜

私はマイナンバーカードを作成していないので、例の「定額給付金」の申請書がポストに届きました。早速開封。我が家は5人家族なので50万円！家族全員の名前が記載されているのを確認し、右側の欄に☑を記入：「ぎや！間違えた！なんでこんな絶妙な位置にチェック欄があるんだよ。」「辞退しません、辞退しませんよ：！」わあつ！と、ここで夢から醒める。「新型コロナウィルス感染症緊急経済対策」として特別定額給付金が支給されることになりましたね。経済対策とのことですから、じゃんじゃん買い物して景気刺激に寄与せよとのことなのか、経済的苦境をしのぐためのお金なのか、捉え方は人それぞれでしょう。しかしこの10万円という金額、なかなか絶妙な金額ですね。独身の職員さんは「車の税金払って、家賃払ってそれで終わりっすね」だとか。中には、テレビやコーヒーグラインダー！車のホイール・DIY工具など、給付される前にすでに購入した強者も。

ある調査によると、「食費などの生活費」に充てると回答した方が半数を占めたそうです。もちろん今回の状況により、仕事が出来なくなり、収入が半減！いや無くなった！という方も…。現在の生活を維持するためにこういった回答になることは仕方ないことなのかも知れません。

しかし、この仕事が無くなる・会社が無くなるという事態は何もコロナのせいとも限りません。この先この日本で起こりうる事が早まったとも言えます。少子高齢化、働き手不足、AI化。伝説のアナリストに言わせると日本の中小企業の多さは非効率・生産性の低さの最たるものだそうです。ピア宮敷など小企業の最たるもの。どうしましようか。国は社会福祉法人の合併や、何とか連携法人というものを提唱し大規模化・効率化を推し進めようとしています。その先に待っているのは福祉予算の大幅縮減。

これから迎える「新たな生活様式」などのパラダイムシフト。今後やってくる強毒性を乗り越え、日本が再び成長軌道に乗った暁には10万円とか言わず、時の政権は、そうすね一人50万円位は国民に配ってほしいのではないですか。でもその時にはしっかりとマイナンバーカードで捕捉され「福祉施設は通常運営で貴方はお休みなすたったでしよう。給料減ってないでしよっから給付金無しね♡」となりそうです。

緊急企画！「ピア宮敷座談会」

新型コロナウイルスの全世界での流行により、感染者や最前線で戦っている医療従事者やそのご家族などに対して誹謗中傷の言葉を浴びせるなどの心無い行為が報道されます。

これは社会的な意識として差別意識がまだまだ存在していることを図らずも露呈させる形となりました。障害者に対する差別の問題も古くて新しい問題であり、そこには今回の新型コロナウイルス感染症に対する世間の反応と同様に潜在的な差別意識が大きく関係していると思われるます。

そこで、日々利用者の皆さんと関わっている職員それぞれの立場から「障害者に対する差別の解消」に向けてどのような手立てがあるのかについて考えるため、各事業所・活動班より若手の精鋭が集結し座談会を実施しました。

- 参加者**  
 ●鶴岡裕太(障害者就業・生活支援センター) ●河野 学(戸外班)  
 ●石野健太(第1工房) ●江澤祥子(クリーン班)  
 ●富澤美香(ステツ班) ●木村俊一郎(夷隅郡市福祉作業所)

最初に「スーパーマーケットで働く障害者に対する差別」に関してのフィクションの動画を視聴し、感じたことについて話し合いました。

鶴岡/地域の障害者を持って働いている方には、差別は身近にあることだと思えます。障害者就業・生活支援センターは地域に出て支援させていたたく仕事です。その中で、まだまだ偏見や無知から差別してしまつていくことが根強く残っています。実際、就労している方に対して助けてくださる方もいれば、差別的な対応も目にします。福祉の人間としてそのような場面に立ち会ったときどうあるべきなのか改めて考えさせられました。



富澤  
が作った商品はほとんどに大丈夫なの？という声が実際にあります。関わり

を持ったことのない人には障害者は私たちとは違うんだということろがまだまだあるなと。

木村/最近ショッピングだった出来事は相模原の事件で、ネットでは意外にも犯人の意見も否定できないという方が大勢いて、世間の認知度はそのレベルなのかと怖くなりました。動画では沈黙することは肯定することだと話していましたが、もしその現場で声をかけてけんかになり、けがでもしたら日常の支援に支障をきたすのではないかと。福祉職員としては、傷ついた障害者に対して声をかけてあげることが現実的かなと思います。



江澤/私は障害者を持つ方と触れ合っているから街中で見かけても抵抗感はありません。

い。障害のある方と関わりがない方々には映像の悪役の人たちの気持ちもあり得るのかなと思います。が、間違っていることを自分たちが正していければいいのかなと思います。

Q その方法は？  
 江澤/障害者を持っている人たちと触れ合う場がより多ければいいのではないかなと思います。

Q ピアでも戸外班で交流会など行っていますよね？  
 河野/近隣小学校とのサツマイモの植え付けや収穫の交流会を行っています。利用者の方と触れ合っているのを見ると子供たちも抵抗なく楽しんでくれていてと思います。毎年継続しており評判もいいので良い印象を与えているのではないかと思います。

石野/障害者を持っている方と抵抗なく接するためには触れ合うことが一番大事。知らないことには恐怖心を抱くと思うので、障害者を持つという方が外に出て健常者と関わる機会を増やすことが良いと思います。

Q 障害のある方が社会の中で見えづらいという状況が日本ではあるとは思いますが、この状況について対策はありますか？  
 鶴岡/知らないことで怖くなつてそれが差別につながる。ナカボツはまさにそういうところを説明していくことがメインになります。「この障害はこういうもの」ということをきちんと説明することである程度企業の方から理解を得られます。知らないからこそ差別が生まれるので、障害を持つ方を雇うためのセミナーを開催するなどいろいろな形で伝えていくことが必要だと思っています。

Q 実際企業に働きかけてみて障害者雇用への反応は？  
 鶴岡/障害者を持つという身体障害、知的障害のイメージが強く、



河野  
害のイメージが強く、



木村  
精神障害は仕事ができないというイメージが強いです。長時間は無理でも

短時間だったら働けるという形を提案すると「そういう人たちもいるんだ、試してみようか」となります。障害という言葉ではなく、人それぞれの個性なんだと掘り下げて話していくことが必要だなと感じます。

石野/障害者と健常者という2つの枠ではなく、健常者も障害者を持っている方もそれぞれ強み弱みがあるので、長所を引き出せるような支援、関わりをしていければいいんじゃないかなと思います。

鶴岡/長所に着目すること、引き出してあげること、エンパワメントの視点です。障害者支援の目標としては社会参加を意識することが使命で、知っていたことで徐々に世の中が障害者の方を理解して差別が減っていくことにつながるのかなと思います。

Q 皆さんの社会参加の活動は？  
 鶴岡/ナカボツでは企業セミナーです。企業に対して障害について勉強会を開催しています。木村/作業所では内職作業を行方たちと繋がるというのがあります。あとは、ピアフェスタの際にジュースを販売したのですが、利用者地域の方とのつながりが自然な形ですごくいい光景だなと思いました。

江澤/クリーン班では道路のゴミ拾いを行ったり通ります。秋に開催される文化祭に絵を出品すると、「今年も飾ってくれてありがとう」と言ってくれる方もいて、それが社会との接点かなと思います。

石野/工房も内職という形でお仕事を頂いて、その受け渡しも含めて社会との接点かな。あとは



鶴岡  
地域のイベントに参加させていたでいて、利用者の方と一緒に生産品等の販売を行っています。

ます。また、公民館清掃や近隣企業と施設外就労の契約を結び、環境整備も行っていきます。

河野/戸外班は前述の交流会です。サツマイモの植え付けやブルーベリーのジャム作り体験をやっています。草刈りも委託を受けて行っており、「ありがとう」と声をかけて下さったり、差し入れをいただいたりすることもあります。良い関係を築けているのかなと思います。

鶴岡/そういう小さな一歩の積み重ねが大事だと思います。地道に「こういう人たちなんです、こういうことができるんです」ということを伝えることを積み重ねて受け手側の見方が変わってくるのではないかなと思います。

Q 今後の展望は？  
 木村/作業所では利用者の保護者やその関係者の方達から徐々に関係を広げていければ良いかなと。SNSで拡散しても広範囲には広がるけど差別感を持った人には伝わらないと思うので、近いところから徐々に繋げていけると良いのではないかなと思います。

富澤/ステツ班では社会につながるという機会は「散歩に行く、公園に行く、挨拶をする」ということだと感じております。障害というだけで個性と言つて受け止め方ではないので知ってもらいたいですね。

鶴岡/ナカボツでは働くというところがテーマなので、障害者を持っている方達でもやり方を工夫することで十分に働く人材になるとい

う事を広げていきたくたいです。障害者を持つという方にも得意、不得意、不得意を自分で見てわかるような評価表を作って企業側への自己紹介の時に使っていたら、理解を深めていきたくたいです。

石野/以前他施設の夏祭りに参加させていただいた時、もともとやっていた地域の夏祭りや施設の夏祭りを一緒に行っていただけです。ピアの近くの小学校も昔夏祭りをやっていたので、ピアフェスタもそういう形でやれたら良いかなと思います。

河野/戸外班の強みを活かしてブルーベリー狩りを開催したり近場の保育園との収穫祭など交流会を増やしたりしていきたいらいいかなあとも感じました。

話は尽きず... 私たちは現在、新型コロナウイルスという大いなる脅威・未知の敵に遭遇したことで、心理的(経済的にも)に大きなストレスを抱えています。余裕を失ったと言つて良いでしょう。そんな時に真つ先に攻撃を受けたり非難の的にされるのが障害者や弱者といわれる人々です。そして障害者の中でも知的障害者は自分がその的になつていくことが自覚できないことが多々あります。私たちは専門職として声を上げる必要があります。



石野

現在のコロナ禍において、この差別意識の問題がクローズアップされ「医療従事者ありがとう」というムーブメントにあります。このうねりを、一過性に終わらせないのでなく、福祉専門職としての実践を「新たな生活様式」ではありませんが根付かせていかなければならないのではないのでしょうか。若い職員たちが語り合いますが、普段の支援の中からそれは築き上げられるものではないでしょうか。

# 2020 新年度がスタート「ピンチをチャンスに！」

## 戸外班より

農作業を主体に取り組んでいる班として、利用者の皆さんが安心・安全に作業参加できるように、気候に合わせての着衣の調整や休憩・水分補給を行い体調管理に努めます。また、農場が数カ所あり各農場での危険箇所や注意点を各職員に周知し、怪我の無いように作業提供します。



活動のひとつに地域貢献・地域交流を掲げています。毎年、古沢小学校・中根小学校との交流会を行ってありますが、コロナの影響により例年ですと5月に開催している古沢小学校とのサツマイモの苗植え事業が中止となってしまいました。戸外班の皆さんで苗植えは行いましたので、10月頃の収穫祭と一緒に出来るように育成していきたいと思っております。中根小学校とはピア農場で栽培したブルーベリーを使用してのジャム作りを11月に予定しています。ブルーベリーの実も大きくなってきました。お楽しみに。色々なことが例年通りに進まない状況ではありますが、戸外班はいつも通りに畑でがんばっています。秋の交流会では沢山の小学生の笑顔、戸外班利用者さんの充実感の笑顔を思い浮かべながら今できる作業を進めていきます。(記事：清水)

## クリーン班より

今年度は、『利用者さん1人1人に応じた作業を提供しそれぞれの方が充実した日々をすごせるように支援する』ことを目標としました。頻りに手洗い消毒を繰り返しながら作業に取り組んでいます。清掃作業は主に施設の2階部分を支援員と一緒に取り組みます。洗濯については、洗濯物を畳む作業を利用者さんに担当して



いただき、支援員が確認しながら利用者さん毎に仕分けていくという流れで作業をしています。そして、創作活動ですが、一年を通じて施設内やどんちゃん、カフェにて作品展を開催していく予定です。今年度は新しい活動として屋外清掃が雨で中止になった時にジエンガやペットボトルボーリング、おたまりレーなど楽しいレクリエーション活動を沢山企画しています。

クリーン班で活動する利用者の皆さんが毎日充実した活動に取り組むことが出来、笑顔で1日を送れることを目指し職員一同頑張っていきたいと考えています。(記事：石田)

## GHより

今年度は東京オリンピック・パラリンピックもあるし、関連イベントなど、グループホームの皆さんとあっちこちに出かけ楽しい思い出をたくさん作ろうとあれこれと計画していたのですが、まさかの緊急事態宣言が発令され、我々のグループホームも外出や帰省の停止措置となりました。利用者さんの中にはストレスが溜まっているのが目に見えて感じられる方もおられました。そこで、クッキーやケーキ、パフェなどのお菓子作り、散歩、アクセサリー作りや野菜作り、お弁当を作って中庭ランチ、ホームの草刈りやウッドデッキのペンキ塗り、端午の節句ではしょうぶ湯に浸かったりと多彩な余暇時間を退屈せずに送れるように実践してきました。その中で利用者さんはお菓子作りが一番楽しかったようです。ホームのウッドデッキのペンキ塗りも、職員目線ですると良かったなと思います。一人一人塗り方にも個性が見られ、塗り残し無く綺麗に塗る方、塗り残しがある方、とにかくどんどん塗り進める方、一向に塗り進まない方、ハケを器用に使う方など新たな発見でした。塗り終えた後の感想を聞くと、手や服がペンキまみれになったものの、元気良く洗剤と「楽しかった！」とのこと。達成感・充実感を得られたようでした。



何も出かけることばかりが能じゃない。我々職員と一緒に取り組めたり、雰囲気づくりが大事なのだと感じました。

緊急事態宣言が解除され、今後の生活がどのようなものになっていくのか、先は見通せませんが、これからも利用者の要望を聞き入れながらユニークで面白味のある余暇を、そこは職員の腕の見せ所ということで色々提案していきたいと思っております。(記事：野坂)



「私は趣味の一環としてバンド活動をしていました。バンド編成はヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボード、アルトサクソフーン、テナーサクソフーン、トランペットです。平均年齢を出すと還暦になる高齢化バンドです。私はアルトサクソフーンを担当しています。音楽ジャンルは演歌、昭和歌謡、ロカビリーからジャズまで幅広く楽しんでいます。楽譜はなんと古希越えのバンマスが全パートを手書きで書いています。活動は主に介護施設での慰問演奏、レストランやライブハウスでの演奏です。レストランでのディナーライブには100名近いお客様が来て下さり、皆さんダンスを踊って大いに盛り上げました。また、プロの演歌歌手のバックバンドを任せられたこともあります。ここ最近は何となくコロナウイルスでライブ活動が自粛対象となり、高齢化バンドというところで練習も自粛になっていきます。一日も早い収束を本当に願っています。」



## ステップ班より

年々歳を重ね、利用者さんの体力や筋力の低下が感じられるようになってきました。ステップ班の活動も安全に無難に、その結果、更に体力・筋力の低下が進む・・・という負の連鎖に陥りつつありました。今年度は、この負の連鎖を止めなくては！ステップ班には現在16人の利用者さんが在籍しています。16人居れば体力も能力も16通りです。同じ様に動ける訳が無かったのです。活動が難しくなってきたのは利用者さんの体力の問題ではなく、もっと個々に活動を提供出来るようなスキルを職員たちが学び「みんな一緒に」を解体しなければならなかったのです。利用者さんの皆さんも余暇的な部分でかなり自粛と制限が掛かってしまっていますが、ピア宮敷では、できる限る日常生活に近い形で日中活動に取り組もう！ということで、班別の活動は通常に近い活動が出来ています。ならば「ピンチをチャンスに変換しよう！」今年度は新人職員さんがたくさん入職しその多くがステップ班所属となりました。しっかりと教育し、利用者さんとの関係づくりをしていただき、できる限り小単位での活動を目指していきます。



ピアの周囲には先人職員さん達が開拓してくれた、のどかな散策コースが何コースもあります。散策コースに自粛はありません。爽やかな田園からの風を感じながらステップ班は歩きます！個々の体力に合わせてコースを選び歩きます！季節の風を感じ、太陽の光を浴びて「コロナに負けない身体作りを」。そしてなにより『16通りのサービスの提供』を目指します。(記事：鈴木)

## 第1工房より

ピア宮敷第1工房では、長年に亘り提供している内職作業ばかりでなく、今年度より近隣企業様からの敷地内の草刈り業務やスポットではありますが農家様からの玉ねぎの収穫作業など、施設外就労として受託することができました。また、内職作業にマッチしない利用者さんや運動不足の解消も考慮し「歩く！」という活動も明確に取り入れました。4月・5月の2か月間で「おや？スリムになった？」という方まで現れました。これまでの継続と新しいことへの挑戦の中、日々の活動の中で意外と見落としがち利用者さんの皆さんの輝く場面の一つでも多く見つけ、利用者さんの満足度のアップに繋げていきたいと思っております。



さて、緊急事態宣言が解除されたとは言え心配が尽きないコロナウイルスですが、毎朝自宅での検温をお願いし、お昼休みにも検温を実施し、換気や館内消毒を徹底しております。そうはいつても感染防止のため、皆さんが楽しみにしている納品という名のドライブ、毎日の日課として取り組んでいた得意な作業を得ることが出来ず、普段とは違った日課となっているのは否めません。いつも通りの活動ができるよう職員一同一丸となってドライブに頼らない余暇活動を取り入れるように努力していきたいと思っております。

最後に「職員間のコミュニケーションを取り、利用者の皆さんの適性をたくさん探りチームプレーで満足度を高めよう」をピア宮敷第1工房の今年度の抱負としました。自粛から解放されつつある工房職員で夜の情報交換会…と行きたいところですが、こちらも今しばらく辛抱し、職員それぞれがウイルスを持ち込まない事を徹底してまいりたいと思っております。(記事：吉野)

## 福祉作業所より

幸いにも受注作業活動への影響はあまりなく、通常通りの作業支援が行えています。今年度は「福祉作業所(生活介護)の存在意義」の再構築を目標としています。支援員間でしっかりと意見を交わし、チーム支援を行っていきます。利用者さんの変化等にいち早く気づき、ニーズをしっかりと把握し、可能な限り個別対応をしてきたいと思っております。また屋外での活動も視野に入れ、利用者の皆さんそれぞれに新たな経験を積んで頂きたいと思っております。それによって活動の幅を広げ、それぞれに役割を持ってもらう事で充実した作業所生活を送れることを期待しています。



個別対応をしていますが、福祉施設はやはり集団生活。感染症へのリスクは常に考えて行かなければなりません。安全で安心して通う事の出来る福祉作業所となるよう支援員一同協力していきたいと思っております。(記事：伊東)

## ワーク&ライフ全力投球 Vol.2

ピア宮敷では、職員のワーク&ライフの充実を応援しています。ワークに一生懸命に取り組むのはもちろんのこと、ライフにおいても、見聞を広げたり様々な経験・体験を積み重ねたりフレキシブルにするのが明日への活力につながるかと考えます。



『私は趣味の一環としてバンド活動をしていました。バンド編成はヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボード、アルトサクソフーン、テナーサクソフーン、トランペットです。平均年齢を出すと還暦になる高齢化バンドです。私はアルトサクソフーンを担当しています。音楽ジャンルは演歌、昭和歌謡、ロカビリーからジャズまで幅広く楽しんでいます。楽譜はなんと古希越えのバンマスが全パートを手書きで書いています。活動は主に介護施設での慰問演奏、レストランやライブハウスでの演奏です。レストランでのディナーライブには100名近いお客様が来て下さり、皆さんダンスを踊って大いに盛り上げました。また、プロの演歌歌手のバックバンドを任せられたこともあります。ここ最近は何となくコロナウイルスでライブ活動が自粛対象となり、高齢化バンドというところで練習も自粛になっていきます。一日も早い収束を本当に願っています。』

## 『ピアフェスタ 2020』中止のお知らせ

毎夏恒例のピア宮敷納涼祭「ピアフェスタ」ですが、新型コロナウイルス感染の推移を睨み開催に向けた協議を重ねてまいりましたが、ご来場者・参加者への万全の安全確保が困難であるとの結論に至り、止むなく中止とさせていただきますことになりました。来年はよりスケールアップした「ピアフェスタ」で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

## ピア宮敷 夏のギフトのご案内

昨冬に発売し好評を得たギフトセットが再登場です。今回は“ハチミツ入りのブルーベリージャム”が入ったセットも新たに加わりました。大切なあの方への贈り物にいかがでしょうか？



【お問合せ先】ピア宮敷第1工房  
TEL.0470-87-5200 FAX.0470-87-7801

## 讃岐うどんの おいしいお店 就労体験館「どんちゃん」

「うどん屋どんちゃん」では夏メニューが5/7(木)よりスタートしています。季節限定の冷たい細い麺があなたを待っています。

その中でもクリーンナップは【じゃじゃ麺】です。3番ファースト“海苔じゃじゃ麺”、4番サード“じゃじゃ麺”、5番レフト“じゃじゃ辛麺”、といった感じでしょうか。夏の甲子園は残念ながら中止となりましたが、どんちゃん甲子園をどうぞお試しください。

なお、どんちゃんではアクリルパーテーションをコロナウィルスの感染防止対策として導入しておりますので合わせてご案内いたします。



海苔じゃじゃ麺

## cafe Pia Miyashiki



「カフェピアミヤシキ」の定休日が5月より毎週土曜日・日曜日に変更となりました。なお、団体様などで土・日にご利用のご要望がありましたら柔軟に対応いたしますのでどうぞお問い合わせください。

さて、コロナによって内食・中食が奨励されていますが、当店のテイクアウト pizza も選択肢の一つに加えて頂ければと思います。事前に連絡をいただければさほどお待たせすることなく商品をお渡しできます。店内メニューでは好評の夏季限定冷製トマト麺が始まりました。さっぱりして美味しいですよ。



## 資格、経験が無くても大丈夫！ 正職員募集

新卒・既卒者も  
歓迎いたします。

【求人内容】障害者支援施設  
生活支援員・就労支援員・作業スタッフ等

※35歳以下：年齢制限例外事由：長期勤続によるキャリア形成を図る観点から、若年者等を募集  
(職業経験不問・新規学卒者と同等の処遇により)

※給与、休日その他詳細は面談にて



職員からの  
メッセージです→



## 笑顔があふれる職場で 一緒に働きませんか！

## ピア宮敷 社会福祉法人 土穂会

千葉県いすみ市岬町岩熊 138-10  
電話 0470-87-9631 担当/内野

※お問い合わせは、ホームページまたはメールからも承ります。  
メール: miyasaki@bz01.plala.or.jp ホームページ: piamiyasiki.jp/

## 障害者就業 生活支援センター

今年度は「支援の質の向上」を目指し、就労支援をより適切に実施するための支援ツールの作成に着手しています。ご相談者のお役に立てるものと考えています。

現在のコロナ禍で寄せられる相談内容も大きく変わってきました。風評被害のご相談や在宅勤務になったことからのストレス等々…。いろいろな制限がある中で、私達スタッフにも働き方の工夫が求められています。そこで、電話やメール等での相談受付に加えて、リモートワークでも打合せや相談ができるようにPC環境の整備も進めています。今できることに取り組み、今年度も精一杯の支援をさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します！

## ニューフェイス

●竹田 圭吾

出身 勝浦市  
配属 ステップ班  
仕事においての目標  
仕事を一日も早く覚え、利用者さんとの信頼関係を築きます。

●板倉 美代子

出身 千葉市  
配属 ステップ班  
仕事においての目標  
早く仕事を覚えて利用者さんと日々楽しく過ごせるようにしたいです。

●山本 佳子

出身 長南町  
配属 クリーン班  
仕事においての目標  
思いやりと感謝を忘れず、そばに居るだけで安心を与えられる様な支援員を目指します。

●熱田 真歩

出身 いすみ市  
配属 第1工房  
仕事においての目標  
しっかりと仕事を覚え利用者の方々との信頼関係を築けるようにします。

●富澤 美香

出身 香取市  
配属 ステップ班  
仕事においての目標  
常に学び、実践する姿勢を忘れずに務めます。ご利用者様一人一人が「できること」や「やりたいこと」に積極的に取り組める環境を提供できる支援員を目指します。

●平林 大裕

出身 大多喜町  
配属 第1工房  
仕事においての目標  
安心・安全・居心地が良いと感じて頂ける支援を提供します。

## 後援会入会のご案内

後援会では、「社会福祉法人土穂会 ピア宮敷」の運営を支援するため、積極的に活動しております。

入会のお問い合わせは、後援会事務局までどうぞ。

0470-87-9631  
(ピア宮敷内)

## ホームページのご案内

ピア宮敷の公式ホームページでは、各種イベントや支援の様子など、最新情報を随時更新してまいります。こちら是非ご覧ください。

## 編集後記

今回の「かえで」では新型コロナウイルス感染症の流行により各種イベントが中止になってしまい、利用者の皆さんの素敵な笑顔をお届けすることが難しくなっていました。そのため、以前より温めていた企画である「座談会」を実施することとなりました。初めての試みであったため不安な面もありましたが、蓋を開けてみれば活発な意見が次々と飛び出し大いに盛り上がりました。今回は広報紙の企画として実施しましたが、研修としても良い題材であったと感じています。今後何らかの形で継続していければと思います。

